

アイスプラネット

椎名 誠しいな まこと



僕のおじさんは「ぐうちゃん」という。津田由起夫三十八歳。いそうろう。

僕の母親の弟だ。いつも母に怒られている。学生のころに外国のいろんな所を旅していたらしく、気づいたときには僕の家に住み着いていた。そして、長いこと「ぐうたら」しているから、いつのまにか「ぐうちゃん」というあだ名になってしまった。でも、ぐうちゃんは変わった人で、そう言われるとなんだかうれしそうだ。それを見て僕の母はまた怒る。怒るけど「これ、ぐうちゃんの好物。」なんて言いながら、ご飯の支度をしているから母もちょっと変わっている。

僕の家は東京の西の郊外にあって、父の祖父が建てた。古い家だけれど、ぐうちゃんが「いそうろう」できる六畳間があって、そこでぐうちゃんは「ぐうたら」している。父は単身赴任で仙台せんだいにいて、週末に帰ってくる。ぐうちゃんがいると何か力仕事が必要になったときに安心だから、と言って、父はぐうちゃんのいそうろうを歓迎しているみたいだ。

ぐうちゃんは、家にいるときはたいいてい本を読んでいるか、唯一のタカラモノであるカメラの掃除、点検などをしている。全く「ぐうたら」ばかりでもなくて、たまに一週間ぐらい留守

10

5



- 作品に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。
- 登場人物の言動や心情を表す表現などに注意して、作品を読み取る。

2 漢 怒るおこ

7 漢 郊外コウガイ

8 漢 単身赴任タンシンブニン

11 漢 唯一ユイ

にするとときもある。ぐうちゃんにきくと、そんなときは、全国を回って測量の仕事をしているという。一度、家に持って帰った測量の道具を見せてもらったけれど、すごく精密な望遠鏡という感じだった。レンズの中をのぞくと中にいっぱい目盛りが付いていて、ダイヤルでピントを合わせる。いかにもプロの人の道具みたいで格好いい。かといって、ぐうちゃんは、測量の専門家でもないらしい。僕の母は、ぐうちゃんのそういう落ち着かない仕事のしかたが気に入らないようだ。「ちゃんと就職して早く独立しなさい。そうして『いそろう』から卒業しなさい。」といつも怒る。

当のぐうちゃんは、母に怒られても、「でもまあもう少し。」などと訳のわからないことを言う。すると、母は今度は僕に向かって、「ぐうちゃんみたいな大人になってはだめだからね。」と言う。本当に文句ばかりだ。

そんな「ぐうちゃん」だけど、僕はぐうちゃんが大好きだ。ぐうちゃんの話は文句なしにおもしろいのだ。母は、「みんなほら話なんだからそんなのを聞いている暇があったら勉強していなさい。」と言うけれど、宿題をするよりよっぽどおもしろい。だから、僕がぐうちゃんの話を書くときははたいていぐうちゃんの部屋に行く。

その日も、夕食の後に僕はぐうちゃんの部屋でほら話を聞いていた。

でっかい動物の話だった。

「悠君^{ゆう}。世界でいちばん長い蛇は何だか知っているか。」

ぐうちゃんは、細い目をめいっばい見開くようにして僕にきいた。それは、いつもおもしろい話をするときのぐうちゃんの癖で、だから、僕はぐうちゃんその表情が好きだ。でも、今日

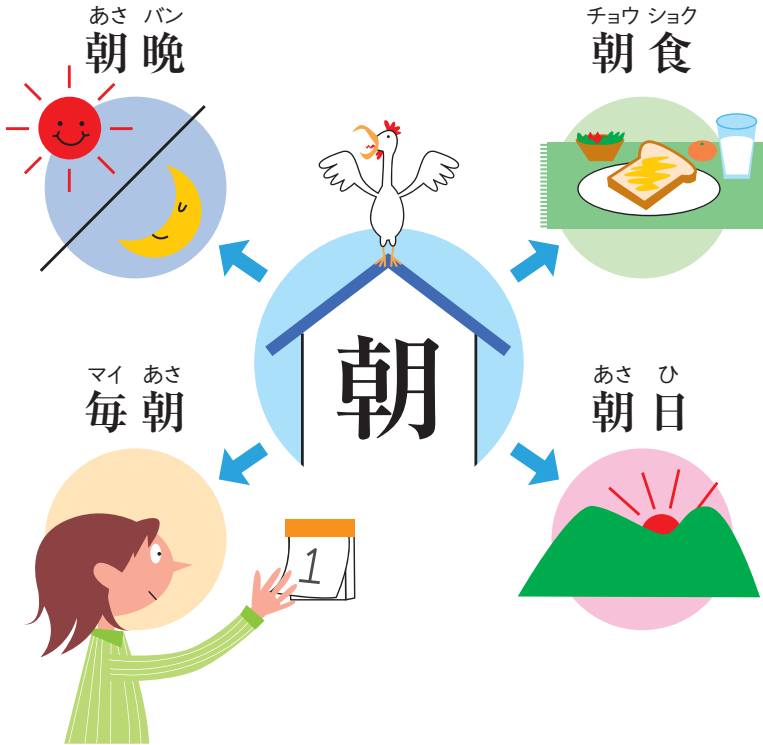
1 測量 工事や地図作成などのため、機器を使って土地の形状や面積などを測定すること。

3 ダイヤル ここでは、レンズのピントを合わせるためのつまみのこと。

熟語の読み方

漢字には音と訓があり、熟語は、次のように音と訓をさまざまに組み合わせさせて読む。

(音は片仮名、訓は平仮名で表している。)



音と音 訓と訓

熟語は、上の漢字が音読みなら下の漢字も音読み、また、上の漢字が訓読みなら下の漢字も訓読みになることが多い。

訓と訓	音と音
着物 (き・もの) 外堀 (そと・ぼり)	着陸 (チャク・リク) 沸騰 (フツ・トウ)
居間 (い・ま) 垣根 (かき・ね)	住居 (ジユウ・キョ) 頒布 (ハン・プ)
など	など

重箱読み 湯桶読み

熟語の上下の漢字を、音と訓を組み合わせさせて読むものもある。「重箱」は、「重」を音、「箱」を訓で読む。このように、上の漢字を音、下の漢字を訓で読むことを重箱読みという。

重箱読み
仕事 (シ・ごと) 本物 (ホン・もの) 気軽 (キ・がる) 別棟 (ベツ・むね) など

また、「湯桶」は、「湯」を訓、「桶」を音で読む。このように、上の漢字を訓、下の漢字を音で読むことを湯桶読みという。

湯桶読み

夕刊 (ゆう・カン) 手本 (て・ホン)
 荷物 (に・モツ) 枠内 (わく・ナイ) など

特別な読み方

↓ 299 常用漢字表 付表

熟語の中には、漢字一字ごとに音や訓で読むのではなく、一つのまとまりとして特別な読み方をするものがある。この特別な読み方を熟字訓とよぶ。

熟字訓

明日 (あす) 今年 (ことし) 五月雨 (さみだれ)
 白髪 (しらが) 梅雨 (つゆ) 吹雪 (ふぶき) など

複数の読み方をする熟語

- 年月 (ネン・ゲツ) / とし・つき
- 明日 (ミヨウ・ニチ) / あす
- 上手 (うわ・て) : ……彼のほうが一枚上手だ。
 (かみ・て) : ……舞台の上手に立つ。
 (じょうず) : ……姉は上手な字を書く。

「年月」や「明日」は、いずれの読み方でも同じ意味を表すが、「上手」は、読み方によって意味が異なる。このような熟語は、文脈に注意して読もう。

練習問題

・は中学校で学習する音訓 ↓ 284

1 次の——線部の熟語を読もう。そのうち、重箱読み・湯桶読み
 読みの熟語を選ぼう。

- 1 峡谷を歩く。
- 2 干潟にすむ生物。
- 3 喪中のはがき。
- 4 素直に助言を聞く。
- 5 川の浅瀬を渡る。
- 6 切符を買う。
- 7 物事の発端を探る。
- 8 国王に謁見する。
- 9 繭玉を飾り付ける。
- 10 錠前を掛ける。
- 11 天敵を威嚇する。
- 12 碁石を片づける。

2 次のアは音で、イは熟字訓で読もう。

- 1 ア甲乙 イ乙女
- 2 ア崩壊 イ雪崩
- 3 ア撲滅 イ相撲
- 4 ア硫酸 イ硫黄

【新出漢字】

57 嚇 カク	57 瀨 セ	56 棟 トウ (むね)	56 沸 フツ わかす
57 碁 ゴ	57 符 フ	57 枠 わく	56 騰 トウ
57 乙 オツ	57 謁 エツ	57 峡 キョウ	56 頒 ハン
57 撲 ボク	57 繭 マユ	57 潟 かた	56 堀 ほり
57 硫 リュウ	57 錠 ジョウ	57 喪 モ	56 垣 かき